

ちいき活動応援セミナー*女子C a f e*第4回

～子どもの未来とふるさとのために私ができること～

テーマ「ちいきの課題に取り組んでいる団体と一緒に考えよう！」結果



日時	平成24年12月9日(日) 14時～16時30分
場所	美濃加茂市生涯学習センター203会議室
内容	みのかもの農業に危機感を持つゲストから現状や活動の内容を聞いて、参加者自身が自分の解決方法を話し合いました。
ファシリテーター	コミュニティ・ユース・バンクmomo代表理事の木村真樹さん
ゲスト	みのかもファーマーズ倶楽部 会長 春見秀則さん
参加者数	合計17名 事務局5人
資料	<ul style="list-style-type: none">・次第・第3回結果(グループワークご意見のまとめ、アンケート結果)・第5回案内(アンケート結果)・アンケート・連絡シート

記録(敬省略)

遠藤	本日第4回はコミュニティ・ユース・バンクmomo代表理事の木村真樹さんのファシリテーターのもと、みのかもの若手農業経営者団体みのかもファーマーズ倶楽部会長の春見秀則さんをゲストにお迎えし「ちいきの課題に取り組んでいる団体と一緒に考える」ということを話し合います。
ファシリテーター 木村真樹さん	自分で考えてそれを話すことが他の人の気づきになることがあります。そうした意識でグループワークに取り組んでください。 本日の話し合いの方法は、組織解決型ワークショップといって、取り組みをはじめたけれど何かが不十分だから一緒に困りごとを解決しようよ、というものです。「解決の糸口が見つけられたらいいな」というところをねらいにして進めます。ワールドカフェという手法ですが、大切なエチケットがあります。「議論ではなく対話をしよう」「正解はありません」「例えば、工場ではなく工房、一品ずつ丁寧に」というものですが、とにかく楽しみましょう!
ゲスト 春見秀則さん	パワーポイントにて自己紹介
木村さん	もう少しみなさんに知ってもらうため情報共有をしましょう。僕から春見さ

んに質問させてもらいます。春見さんは農業をはじめる前にサラリーマンをしていたということですが、どのような職種・お立場だったのですか？

春見さん プラスチック製造会社の営業担当でした。見積りから販売まで一人で考える仕事です。

木村さん 農産物の販売も自分で価格を決めて直売したいと思いませんか？

春見さん 農業は市場任せですが本当は自分で価値を決めるべきだと思います。私は付加価値を付けて高く売りたいと思います。

木村さん では、みのかもファーマーズ倶楽部の強みを教えてください。

春見さん 設立時から市役所や情報誌に取り上げてもらうことが多く、みなさんに認知されているところが強みだと思います。住民のみなさんからよく声をかけてもらっています。

木村さん 本日のワークショップで解決したい組織の課題は何ですか？

春見さん 仕事のお手伝いに対して、ボランティアさんをお願いする場合と、給料等をお支払いする場合、どのように線引してよいか悩んでいます。

木村さん 現状はどうしていますか？

春見さん アンテナショップ店舗内の仕事は時給制、リーダーは月給制、農作業するファーマーズ女子会は補助金で対応しています。私は全く無給のボランティアは難しいと思います。

木村さん Aさんは調理販売や農作業で関わっているということですが、どう感じていますか？（※Aさんはみのかもファーマーズ倶楽部の会員ではなく、惣菜メニュー開発・農作業のお手伝いに関わっている女性です。）

Aさん メニューの考案、人の調整、買い出し等経費に積算しにくい作業があり、それは積算していません。

木村さん みなさんから質問を受け付けましょう。

Bさん ボランティアは好きでないといけないことで、集めることも大変です。

Cさん 農業経営に関する勉強会等を行っていますか？

春見さん 簿記や法人化について講師を招いて勉強会を開催しました。

Dさん ミーティングはどういったペースで行っていますか？

春見さん 毎月1回のペースでミーティングを行っています。関わってもらっているみなさんには、給料以上の仕事をしてもらっていると感じています。

木村さん Aさんは、金額以上の仕事は続かないと思いませんか？

Aさん 私は将来自分でやりたいことがあり、そのための人脈づくりや勉強の機会だと考えています。

木村さん みなさん、みのかもファーマーズ倶楽部のこと、春見さんの悩みがだいたい感じとれたと思います。テーマは「ボランティアの巻き込みや活用について」とします。この中でボランティアをやったことのある人？半分以上いますね。僕は、お金を使うボランティアもあり、時間を使うボランティアもあると考えています。

では、最初の質問は「なぜ、人はボランティアをするのか？」です。まずは、みなさんの経験を語ってください。話し合いの時間は20分です。話に夢中

になると言ったこと、聞いたことを忘れてしまうので、テーブルの模造紙に気になってことをメモしてください。絵でもOKです。質問があれば春見さんに聞いてもよいです。

[グループワーク]

木村さん では第2ラウンドに移ります。グループの中でお一人だけ残ってあとの人はほかのテーブルに移ってください。こうして世界に旅立つのがワールドカフェです。次の質問は「ボランティアする（続ける）しくみやしかけは？」です。

[グループワーク]

木村さん それでは、A4白紙に春見さんへのアドバイスや応援メッセージ、また自分が提供できること等と名前を書いて前に持って来てください。

[ホワイトボードに貼り出し]

春見さんへのアドバイス・応援メッセージ・提供できること まとめ

- 「農業は国の基なり」こんな組織を作ってくれてありがとう！
- 大変だと思いますが、ファーマーズ倶楽部の人達が楽しむことが、まず1番かもしれません。楽しんでいる所には人が集まると思います。わくわくできる事やって下さい！
- まずは自分が楽しむことが大事。楽しいことに人は集まる！
- みのかもの農業を楽しく、イキイキしていってほしい。
- 食をつなぐことは「生命」をつなぐ事です。
- 「みのかもファーマーズ倶楽部」にしかできないもの、魅力、付加価値をつけることが大切。知ってもらって好きになってもらうことで、共感する人たち（ボランティア）も増えていくと思います。
- 楽しい活動、好きなら続く。ボランティアよりもファンを増やす。
- 魅力ある活動を目指さずにボランティアの確保は難しいことを認識しよう。
- 組織体制より「ヤル気」を表に出そう。
- ボランティアという言葉にこだわらず、仕事には対価は必要ではないか？対価の使い方は、その中で回っていくように。
- 農家の作業とかも、手伝えたらうれしいです。（将来農家希望です！）
- 私の活動を通じたボランティアのキーワード①「カッコいい」農業（女性）、②「楽しい」③ボランティアにも対価を（新鮮な野菜、ポイントカード、金券）
- ファーマーズ ← 商品・心・安心・体験・仲間 → 買う人⇒ボランティア化
- 「人」は誰も孤独で、単に「お金」の側面でのみ動いている訳ではない。「夢」や「教官」「情」の「気」で動いている。
- 親子体験などを通して、通年でボランティアをしてもらう。（その時、ちょっとした報酬（pointとか地域通貨）があるとうれしいし続くとと思います。

- 顔の見える野菜は誰もがほしいところです。まだまだ知名度が上がるのりしろは大きいので、めげずに声をかけていってください。
- 広げ方についてはメール、郵便とかでどんどん配信する。
- 小さな子供が野菜好きになってくれるとイイナ。ファーマーズさんの野菜、食べたいです！そして近所の人に広めたいと思いました。応援しています。
- 「もくもく」みたいなレストランをつくる。ロコミを大切に作る。→皆にどんどん広めていってほしい。新鮮な野菜をたくさんの人に知ってもらおう。
- 野菜販売やお店の事を友達に話して、一緒に行くことができます！情報はどこで見ればいいですか？
- 「みのかもファーマーズ倶楽部」の看板→ブランド化
- 生産は安全第一、販路拡大はチャレンジをお手伝いします。
- 無料で飲み食いできる場所を作る。グダグダしゃべれる、誰かがいつもいる場所を提供する。
- 美濃加茂（農）産物で忘年会、新年会、サークル独自のオリジナル料理が出来れば。
- 自給自足できるに越した事はないですけど。
- 地産地笑→その土地の土俵を生かす。
- 高齢者農業者の「力」を借りよう。
- 我が国の農産物市場、飲食メニュー動向等に注視しよう。
- 農業をカッコいいものにしたい。農業は最高のぜいたく→ぜいたくを売り物に。

- 木村さん 春見さん、感想はどうですか？
- 春見さん 人が集まってくる環境が大切だと感じました。お金もうけや組織づくりに頭が行き過ぎていたように思います。まずは、みんなで楽しむことが大切だと改めて思いました。イベント案内はどういう方法ですと伝わりますか？
- Bさん 私たちは、図書館、公共施設、保育園に持っていきます。
- 木村さん だれに来てもらいたいのか考えてみえる好例ですね。
- Eさん 誰かを連れて来てくれるようなしくみがあるとよいと思います。
- Fさん FMららのパーソナリティをしています。どうぞご連絡ください。
- Gさん 自治会の了解が得られれば、自治会回覧もできると思うが。
- 木村さん 僕はフェイスブックでみんなに拡散してもらっています。自分一人では限界があるけれど、一人は100人のお客さんを持っていると言われます。こうやってたくさんの方が教えてくれるとうれしいと思います。僕は「ボランティア」に対する概念を払しょくしたいと考えています。趣味にお金や時間を使うことと横並びにボランティアがあつていいと思います。僕の組織であるコミュニティ・ユース・バンクmomoにいる40人のボランティア（momoレンジャー）は時間を使って参加しているし、消費者はお金を使って参加している、と考えられると思います。そして、みんながほしがっている情報は時間とお金に換えることのできる商品だと考えていま

す。関わり方として、最近、プロボノというボランティアの方法があります。仕事や経験を活かして関わる方法です。スキルは「あなたしかできないこと」を認めてもらうことであり、仲間づくりは「仕事では得られない価値」として魅力に感じているのだと思います。ボランティアを継続する方法として、チームで取り組む緊張感をつくったり、関わる期間を区切って気持ちを楽にしてあげる方法もあります。今は乗り越えられないものを乗り越えられるメニューを考えて提供することも大切でしょう。

遠藤

女子C a f e 第5回のお知らせ

日時：1月26日（土）午後2時～4時30分

場所：みのかも文化の森研修室

テーマ：木村真樹さんから学ぶファシリテーション講座

木村真樹さんと春見秀則さんのお話の後

ワールドカフェをスタート☆

第1ラウンドは「なぜ人はボランティアをするのか？」

第2ラウンドは「ボランティアする(続く)しくみやしかけは？」

をテーマにしてグループで話し合いました。



ファシリテーター
木村真樹さん



ゲスト
春見秀則さん

**ワールドカフェには春見秀則さんも参加して
参加者からの質問を直接受けたり
農業への思いを語りました。**